

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第1章 パート3

.....
このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くなれば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

二日間。「この俗世で、二日間、あなたがたと共にいます。」

そう言ってイエスはこの世に留まり、二日間サマリヤ人に手を差し伸べました。

二日間…2000年。

そして、三日目には婚礼の儀。

私たち、イエスの花嫁は花婿と共にいて、ぶどう酒 - - 永遠の喜び - - で満たされます。

その日は永遠の栄光に満ちた幸せとなるでしょう。嬉しくなります。

足まで垂れた衣で感情も完全に覆われて、もう涙もない。あるのは、黄金の心。

主は全てをご存知です。その上で、あなたを愛し花嫁に選んで下さったのです。

その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、(黙示録 1:14)

真っ白な髪の毛をしたイエスの絵をよく見ますが、このみことばはそういう事ではありません。聖書を、詩を、ヨハネを読む時は、それ以前に書かれている事を念頭に置いて読まなければなりません。

ある人はこう言いました。「聖書の始めから 65 番目までの書を読まない人には、66 番目の書は何の意味も持たない。」これは、真理だと思います。

皆さんは「**その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く**」と聞いて、何を思い出しますか？羊毛や雪と聞いて思い出す聖句はありませんか？

たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。

(イザヤ書 1:18)

これは何を描写しているのでしょうか。主の頭、主の髪の毛、主の思い、主の視点、主の…

それは、主の赦しと憐みに基づくもので、あなたや私を知った上でこう言われるのです。

「わたしはあなたが誰であり、どこにいたのかも知っている。それでも、あなたを清め、白くし赦す。これがわたしが思うあなたの姿。雪のように白く、羊毛のように白いわたしの髪の毛、これがわたしに見えるあなたの姿だ。」

このように、これはイザヤ書と直接つながっていて、赦しを意味しているのです。

その目は、燃える炎のようであった。(黙示録 1:14)

炎は面白いもので、例えば、暖炉の中の炎は、何よりも癒しやぬくもりとなりますが、正しい所に置かないと、家や自分自身を燃やしてしまいます。

この土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。

(第1コリント 3:12 - 13)

そうです！裁きの時、主の前に立ったなら、私たちの全ての行いが調べられ、明らかにされ、判断が下されます。そして、私たちの木や草、わらは燃えてなくなり、金、銀、宝石だけが残るのです。その時、主は「良くやった！」と言って下さる。

私には大量の木があることも、巨大な山となって積み上がっている草も、あらゆる種類のわらがあることも分かっています。

しかし、その日、主が私に目を向けると、それらは消えてなくなり、金、銀、宝石だけが残ります。私の行いに拘わらず、主は私を見て「良くやった！ ジョニー！」と。

だから、私は気持ちが楽になるのです。

その目は、燃える炎のようであった。(黙示録 1:14)

足は炉で精錬されたしんちゅうのように輝き、(黙示録 1:15 新共同訳)

ここでもう一度、彼らの立場になって考えて下さい。

あなたがたは迫害を受けていて、牧師からのメッセージを読んでいる。

すると突然、このイエスの描写が与えられるのです。「これが、私が見たイエスだ！」

「足は炉で精錬されたしんちゅう」(黙示録 1:15)

炉と聞いて思い浮かぶのは、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。

彼らも燃える炉の中を通り、同じような迫害を受けました。

ヨハネは、愛する人々に伝えているのです。

「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの話を覚えているか？彼らもネブカデネザルの像を拝まなかったから、炉の中に放り込まれた。しかし、そこに姿を現わしたのはイエスだった！」

すると王（ネブカデネザル）は言った。「だが、私には、火の中をなわを解かれて歩いている四人の者が見える。第四の者の姿は神々の子のようだ。」

(ダニエル書 3:25)

「あの時彼らと共におられたように、イエスは今もあなたがたと共におられる。『わたしもあなたがたが通っているのと同じ炉を通ったのだ。わたしもあなたがたと共に歩いたのだ。』と。」

主の足は私たちを踏みつけ、焼き尽くすものではありません。

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。(ヘブル 4:15)

主は私たちの気持ちも、苦しみも、弱さも知っておられます。

その声は大水の音のようであった。(黙示録 1:15)

主の声は川を流れる大水。合流した水の流れが増すほどに、水の音はどんどん大

きくなります。それはものすごい音量でパワフルです。

「でも、私には主の声が聞こえない。」ですか？

だけど主は「わたしの声は大水の音のようだ。」と言われる。どういうことでしょうか。

明日の朝、ラジオから聞こえてくる小さな川のせせらぎ、ディフォーションで与えられたみことば、友人との会話、あなたが出かける際に奥さんがささやいた言葉、目に映った自然の景色、心に響いた何か…

突然、これらの小さな流れが全て合流して、神からの語りかけとなって流れ出る。そうすると、一日の終わりには「主よ、あなたの声が聞こえました！」と言えるのです。

みことば、人、ラジオ、本、会話、被造物の静かで小さな音、ディフォーションなど、それぞれの流れは小さいけれど、それらが合流して一緒になった時、パワフルで否定しようのない大水の音が、音量を増して押し寄せて来る。

主は、「わたしの声は色々な方向からあなたに入り、あなたが行くべき道にあなたを導く。」と言っているのです。

また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、(黙示録 1:16)

主が微笑むと口から両刃の剣が飛び出してくる…なんて想像しないで下さい。両刃の剣とは、

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、(ヘブル 4:12)

主が語ると人々は驚きました。

それは、主が権威をもって聖書を語ったからです。主はみことばを語られる。

皆さんの中の主のイメージは、不機嫌で怒った顔ですか？

ヨハネは愛する人々にこう続けました。

顔は強く照り輝く太陽のようであった。(黙示録 1:16)

主の顔はピカピカと光り輝いていたのです。この太陽のイメージは、皮膚がんの原因になる紫外線ではなく、次のみことばです。

『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

(民数記 4:24 - 26)

それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。
しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。
「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。
わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。」(黙示録 1:17 - 18)
アーメン。

ここで気付いてほしいのは、ヨハネはひざまずいたという事。
彼は背後で構えている人の腕の中に、後ろ向きに倒れ込んだのではない。
聖書の中で人が倒れる時は、必ず前に倒れ、ひざまずき、ひれ伏しています。
今までたくさんの集会に参加しましたが、霊的に打たれた人は必ず後ろ向きに
倒れて、背後で構えている人に抱えられる。

聖書の中で後ろ向きに倒れる場面は一か所だけです。
その夜、兵士たちはキリストを逮捕するために園の中にいました。イエスが彼ら
に「誰を捜しているのか。」と聞き、彼らは「ナザレのイエスだ。」と答えた。
イエスが彼らに「それはわたしです。」と言われたとき、彼らはあとずさりし、
そして地に倒れた。(ヨハネ 18:6)

よくわかりませんが、色々な集会で人が後ろに倒れる人を見ると、それがイエス
の敵であることを証明しているように私には見えるのです。
最近、多くの教会で頻繁に見るのは、霊的に打たれた人が、ひざまずくように、
ひれ伏すようには倒れない現象。私はそのことに疑問を覚えます。
私に言えるのは、キリストに感嘆し、心を打たれ、心動かされ、祝福された時、
人というのは前に倒れ、ひざまずき、ひれ伏す。これは確かです。
ヨハネは主を畏れ、倒れてひざまずき、ひれ伏して死人のようになったのです。
その時、イエスは彼に触れて言われました。「恐れるな。」

「また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と
陰府の鍵を持っている。」(黙示録 1:18 新共同訳)

自分でも何故かわかりませんが、ディボーションや何かを通して、私の中にはず
っと長い間、キーホルダーをぶら下げているイエスの姿がありました。
「OK。お前は地獄だ！」と人を閉じ込めるために、鍵をガチャガチャさせる…
皆さん、イエスが死と陰府の鍵を持っているのは、人をそこに閉じ込めるため
ではなく、人を解放するため、自由にするためです。

「もしあなたが望むなら、わたしはあなたを、地獄のような捕われた環境から解放することができます。

もしあなたがわたしを受け入れるなら、わたしはあなたを、地獄から永遠に救うことができます。

あなたを自由にすることが、わたしの望みなのです。

真理を知りなさい。真理はあなたを自由にするのだから。」

これが、全てのクリスチャンに、皆さん一人一人に、地獄のような状況の中にいるあなた個人に向けられた主からのメッセージです。

実際にあった出来事を紹介します。

チェコスロバキアのある女性は、非情で暴力的な夫によって、辛く耐え難い毎日を送っていました。もうこれ以上は無理だ、限界だと思い、夫を殺してしまいたかったけれど法は犯せない。それで、その夜、彼女は自分の命を絶つ事を決心し、10階建てアパートの角部屋の窓を開けて飛び降りたのです。10階から。丁度その時、その瞬間、夫が道の角を曲がって下を通った。彼女は夫を直撃して彼は死亡、何と、彼女は全くの無傷でした。

これは実話ですよ。もう、ビックリです。

主は問題解決の方法も用意している。本当です。

主は、あなたを閉じ込めている牢獄から解放するための鍵を持っています。

だから主を信頼して、主が正しいとされる方法に委ねましょう。

牧師であり兄弟であるヨハネが言っています。

「あなたがたが困難の中で、もがき苦しんでいることを私は知っている。しかし私たちの主、白い髪の毛、燃えるような目、金の帯を締めた方が、あなたがたを自由にする鍵を持っておられる。主は生きておられる。主ご自身が炎の中をくぐって来られた。彼の足は炉で精錬されたしんちゅうのよう。主を信じなさい。」

そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。

(黙示録 1:19)

この19節は、黙示録を読み解くカギ、アウトラインです。

わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は七つの教会の御使いたち、(黙示録 1:20)

子供たちに守護天使がいるように、おそらく、私たちのこの教会も含めて、各教

会には御使いがいます。

また、ここでの“御使い”には“メッセンジャー”の意味もあり、牧師やリーダーを表しています。

牧師として兄弟として、星が主の御手に握られているというのは大きな慰めです。

その御手には傷があり、その傷によって、私の罪もあなたの罪も贖われたから。だから、「主よ、私をお使い下さい。」と言えるのです。

“星”とは誰のことでしょう。

多くの者を義とした者は、世々限りなく、星のようになる。(ダニエル書 12:3)

牧師は勿論ですが、皆さんの中で「多くの人たちを義に導こう。」と思っている人のことです。

いいですか。牧師、リーダー、長老、相談役、誰でもよく聞いて下さい。

もしあなたが星、と言っても世が言うスーパースターではなくて、神の目から見た星、人々を義へと導く聖徒、伝道者になっていないなら、注意してよく聞いて下さい。

私たちはリーダーとして、兄弟姉妹、個人、教会として伝道者になるか、もしくは化石化するか。自分の信仰を伝えるか、もしくは乾き切ってしまうか。どちらかなのです。

ここ1週間以内に、誰かに信仰を伝えましたか？しかも本気で。

或いは1ヶ月以内？もしかしたら1年以内？

だとしたら、すっかり軋んでいるでしょう。ギシギシ、キーキー、音がしている。

“星。”

多くの者を義とした者は、世々限りなく、星のようになる。(ダニエル書 12:3)

星は天で輝くだけでなく、今この地上でも輝きます。

メッセンジャー、親、大工、配管工、誰であれ、人々を義へ導く人が“星”なのです。

七つの燭台は七つの教会である。(黙示録 1:20)

黙示録1章終わり。

神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。

寛容を尽くし、絶えず教えながら責め、戒め、また勧めなさい。

(第2テモテ 4:1 - 2)